

## 「気になる」子どもの保護者支援に関する調査研究

本郷一夫・高橋千枝・平川昌宏・角張慶子・飯島典子・杉村僚子

東北大学大学院教育学研究科

本調査では、保育所、幼稚園における「気になる」子どもの保護者支援の現状を把握するために、公立保育所、私立保育所、幼稚園を対象に質問紙調査を行った。その結果、1) 「気になる」子どもの保護者支援に際して、保育者は保護者と送迎時に話すことが多く、保護者が理解しやすいように、肯定的なことも交えて話すことを心がけていた。2) 職員間での話し合いといった施設内の連携は比較的頻繁になされている一方で、他機関との連携体制が十分確立されていなかった。3) 保護者が自分の子どもの状態を認めている場合、積極的な支援が行われているが、保護者が子どもの状態を認めることに拒否的である場合は、支援が困難であり、事態を見守らざるを得ない傾向にあった。以上のことから、保育者向けの研修会の充実など、「気になる」子どもの保護者支援の今後のあり方について検討がなされた。

キーワード：「気になる」子ども 保護者支援 保育所 幼稚園

### 【問題と目的】

近年、いわゆる「気になる」子どもに対する保育をどのように進めていけばよいかということが大きな問題となってきている。ここでいう「気になる」子どもとは、顕著な知的な遅れがなく、専門機関において何らかの障害をもつとは判定されていないものの、「他児とのトラブルが多い」「落ち着きがない」「状況の変化にうまく対応できない」「ルール違反をすることが多い」などの行動特徴をもつ子どものことである(本郷他, 2003a)。このような「気になる」子どもの保育に当たっては、「気になる」子ども自身への支援だけでなく、「気になる」子どもが在籍するクラス集団への支援、物的環境の調整、担当の保育者に対する支援、保護者への支援が同時的になされることが重要となる(本郷, 2002)。なかでも、保護者への支援については、保育所、幼稚園において日々の実践がなされているにもかかわらず、なお多くの難しい問題がある。これに関連して、「保育の場における心理職の専門性に関する全国調査」から、現状と期待の差が大きい項目(今後一層充実させていく必要があると考えられる項目)、上位4項目のうち3項目が「気になる」子どもの保護者支援に関するものであるという結果も示されている(本郷他, 2003b)。すなわち、「『気になる』子どもの保護者へのカウンセリング的関わり」(4段階評定における現状と期待との差1.80)、「『気になる』子どもの保護者への発達相談・関わり方の助言」(1.77)、

「『気になる』子どもの保護者との関わり方への助言」(1.68)の3項目であった。

このような状況を受け、本研究では、保育所、幼稚園における「気になる」子どもの保護者支援の現状を調査し、今後の保護者支援のあり方を検討するための資料を得ることを目的とする。

## 【方法】

1. 調査対象： A市内の公立保育所50か所、私立保育所47か所、幼稚園113か所、計210か所に質問紙を送付した。

2. 調査期間： 2004年2月。

3. 手続き： 各保育所・幼稚園に質問紙を1部郵送し、郵送にて回収した。

4. 質問紙の構成： 質問項目は保育所や幼稚園における育児支援に関する調査(徳田, 2000; 田淵, 2003)、障害児の保護者支援に関する調査(藤崎他, 2000; 久保山・小林, 2000)などを参考に作成された。なお、質問紙の最初の部分で「気になる」子どもの定義を本郷他(2003a)の調査結果を参考に明記した。

(1) フェース・シート： ①施設の種別(公立保育所・私立保育所・幼稚園)、②入所・入園定員数、③所在区、④記入者の職務を尋ねた。また、⑤現在「気になる」子どもが在園しているか、そして⑥過去に在園していたことがあるかについて尋ねた。

(2) 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションに関する項目： 保育者と「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの実態を把握するために、保育者が「気になる」子どもの保護者とコミュニケーションを行う際の、①手段・場面(7項目)、②内容(7項目)、及び③コミュニケーションを行う際の心がけ、それぞれについて「1. 全くしていない」から「5. よくしている」までの5件法で尋ねた。また、「クラス担任」と「所長/園長・主任/副園長」の対応それぞれについて評定を行なってもらった。

(3) 園内の体制および他機関との連携に関する項目： 「気になる」子どもの保護者支援として行われている、園内での連携、及び他機関との連携7項目について、「1. 全くしていない」から「5. よくしている」までの5件法で尋ねた。

(4) 保育所・幼稚園のニーズに関する項目： 「気になる」子どもの保護者支援を行う際の保育所・幼稚園で求められる事項8項目について、「1. 全く必要ではない」から「5. 非常に必要である」までの5件法で尋ねた。

(5) 「気になる」子どもの保護者支援の困難さに関する項目： 「気になる」子どもの保護者支援の困難さについて、6つのタイプの保護者それぞれに関して「1. 全く困難ではない」から「5. 非常に困難である」の5件法で尋ねた。6つのタイプの保護者とは、①自分の子どもが「気になる」子どもであることに気づいていない保護者、②自分の子どもが「気になる」子どもであることを認めることに拒否的な保護者、③具体的な支援や対応を求めている保護者、④精神的な悩みを抱えている保護者、⑤家庭での「しつけ」が非

常に厳しい保護者、⑥生活に困難を抱える保護者、である。

(6) 「気になる」子どもの保護者支援の方法に関する項目： 上記の6タイプの保護者各々に対する6つの具体的な支援について「1. 全く重要ではない」から「5. 非常に重要である」の5件法で尋ねた。6つの支援とは、①しばらく様子を見守る、②保護者の思いを受け止める、③定期的な話し合いの機会を持つ、④子どもの状態を正確に伝える、⑤家庭での接し方について助言する、⑥専門機関に紹介する、であった。さらに、上記6項目以外で重要となる対応について自由記述を求めた。

(7) 自由記述： 以上の質問項目が終了した後自由記述の欄を設け、「気になる」子どもの保護者支援について、①特に難しいと感じていること、②力を入れている取り組みについて記入してもらった。

## 【結果と考察】

### 1. 回答者の属性

質問紙を送付した210か所の保育所・幼稚園のうち153か所の施設から回答が得られた(回収率72.9%)。対象となった①施設の種別の回収率を表1に示した。また、回収された質問紙を、②入所・入園定員数別にみると、

定員<70名以下>が25か所(16.3%)、<71名~110名>が64か所(41.8%)、<111名~150名>が26か所(17.0%)、<151名~200名>が16か所(10.5%)、<201名以上>が20

表1 回収率

回収率	回収数	配布数	割合(%)
公立保育所	50	50	100.0
私立保育所	39	47	83.0
幼稚園	64	113	56.6
合計	153	210	72.9

か所(13.1%)、<不明>が2か所(1.3%)であった。③各区ごとの回収率は、<青葉区>74.5%、<宮城野区>71.4%、<若林区>75.9%、<太白区>77.1%、<泉区>63.9%であり、④回収された質問紙への記入者は、<所長・園長>が37.9%、<主任・副園長>が34.6%、<担任>5.9%、<その他>が10.5%、<不明>が11.1%であった。また、⑤現在「気になる」子どもがいる保育所・幼稚園の割合は86.3%、⑥過去に「気になる」子どもがいた保育所・幼稚園の割合は85.6%であった。

### 2. 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーション

図1~図3には、「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションをどの程度おこなっているのかについて「担任と保護者」(以下「担任」と表記)と「所長(園長)・主任(副園長)と保護者」(以下「園長」と表記)別に尋ねた結果が示されている。

2-1. 【「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの手段・場面】の項目では、「担任」「園長」とも<送迎時に話す>が最も高かった(各々、4.1、3.2)。次に、「担任」の場合は、<連絡帳のやりとりをする>(3.3)、<保護者会や保育参観の時に話す>(3.1)と続いていた。一方、「園長」の場合は、<保護者会や保育参観の時に話す>

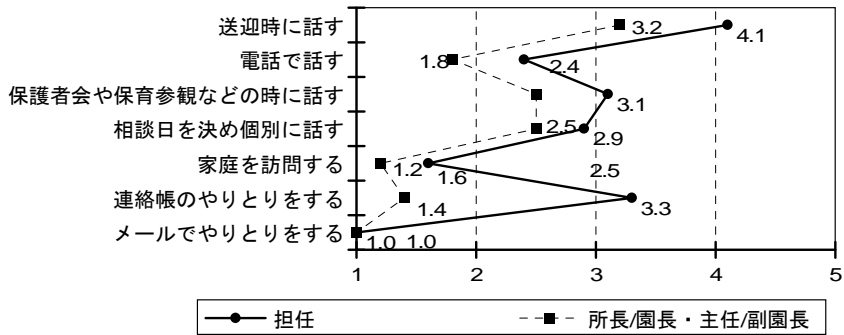


図1 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの手段・場面

(2.5)、＜相談日を決め個別に話す＞(2.5)と続いていた。＜家庭を訪問する＞＜メールでやりとりをする＞は、いずれにおいても評定値が低かった。

2-2. 【「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの内容】の項目では、「担任」の場合、＜子どもの園での様子について話す＞が最も高く(4.5)、＜子どもの家庭での様子を聞く＞(4.2)、＜園での取り組みについて話す＞(4.0)と続いていた。「園長」の場合は、項目によってそれほどバラツキがなく、3.0を中心に分布していた。

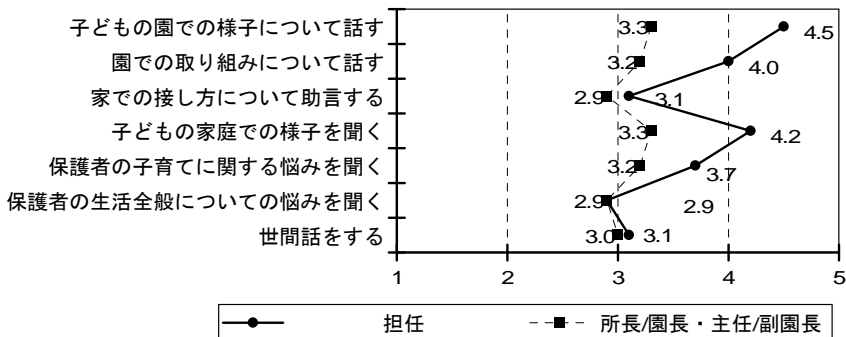


図2 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの内容

2-3. 【「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの際の心がけ】の項目では、担任と園長で同じような傾向を示した。すなわち、＜保護者が理解しやすいように話す＞＜否定的なことだけではなく、肯定的なこととも交えて話す＞＜保護者の話をたくさん聞く＞といった項目の評定値が高かった。一方、＜事実をはっきり伝える＞＜子どもについての問題を認識してもらおう＞＜自分たちの子育てを見直してもらおう＞など、保護者が直接問題と向かい合うような働きかけは多くなかった。

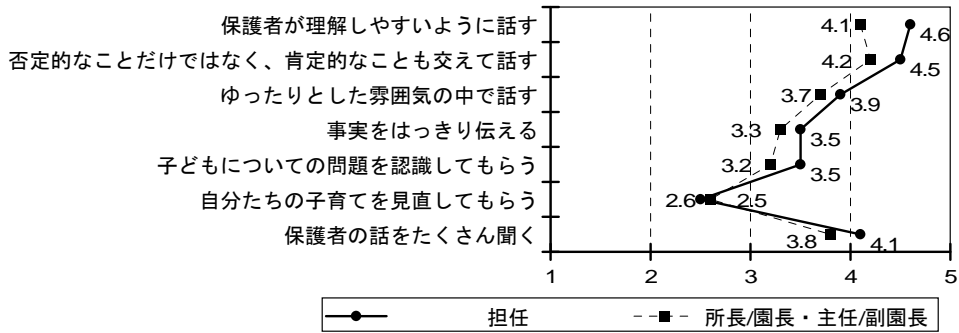


図3 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの際の心がけ

### 3. 園内の体制および他機関との連携

図4には、園内の体制および他機関との連携に関する質問の結果が示されている。全体としては、＜クラス担任と所長（主任・副園長）で話し合いの場を持つ＞（4.1）、＜職員全体で話し合いの場を持つ＞（3.8）が比較的多く行われていた。この2項目以外の＜専門機関と連絡をとる＞＜専門機関を紹介する＞＜専門機関へ同行する＞＜行政機関と連絡をとる＞＜小学校と連絡をとる＞の5項目はいずれも論理的平均値である3.0よりも低く、施設内の連携に比べて他機関との連携が十分ではないことがうかがわれる。

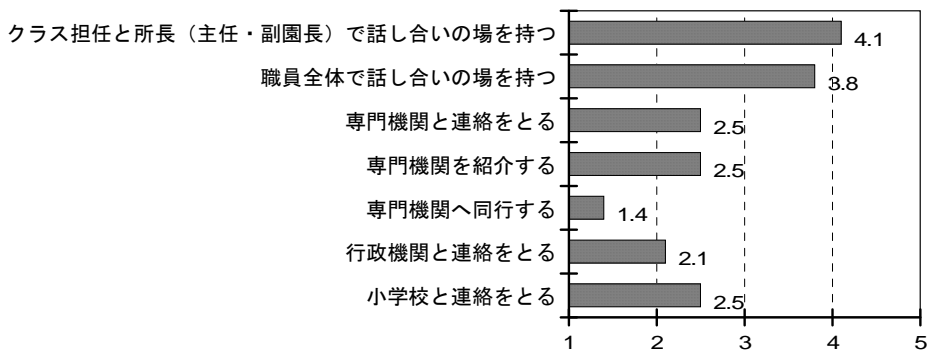


図4 園内の体制および他機関との連携

### 4. 保育所・幼稚園のニーズ

図5には、保護者支援を行う上で、どのようなことが必要か尋ねた結果が示されている。全体として＜保育者向けの「気になる」子どもの理解や発達に関する研修会＞（4.5）が最も高く、＜専門機関の巡回相談＞（4.3）、＜保育者向けの保育技術に関する研修会＞（4.3）、＜保育者向けの保護者支援に関する研修会＞（4.3）と続いていた。全体として、研修会などを通して保育者としての専門性を高めていくことに関するニーズが高く、問題に積極的に関わろうとする保育者の姿勢がうかがわれる。

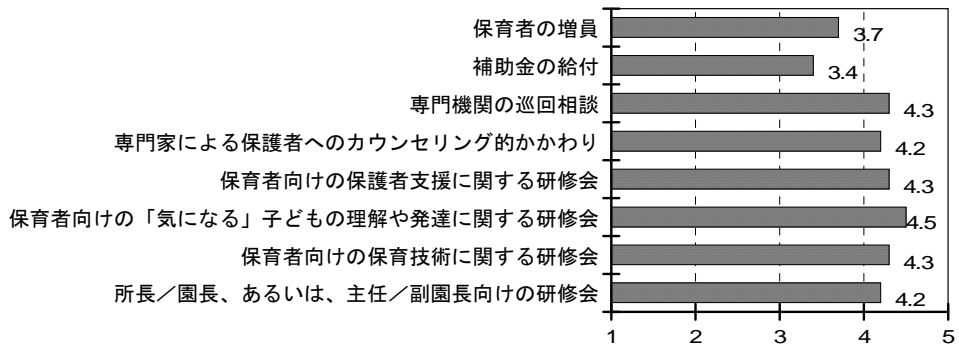


図5 保育所・幼稚園のニーズ

### 5. 「気になる」子どもの保護者支援の困難さ

図6には、保護者のタイプ別に支援の難しさについて尋ねた結果が示されている。全体としては、＜自分の子どもが「気になる」子どもであると認めることに拒否的な保護者＞（4.5）が最も難しいという結果であった。次に、＜自分の子どもが「気になる」子どもであることに気づいていない保護者＞（4.2）が続いていた。一方、＜具体的な支援や対応を求めている保護者＞は、評価値が3.0以下であり、支援が比較的容易であると捉えられていたが、実際の支援を行う段階では様々な問題があると考えられる。

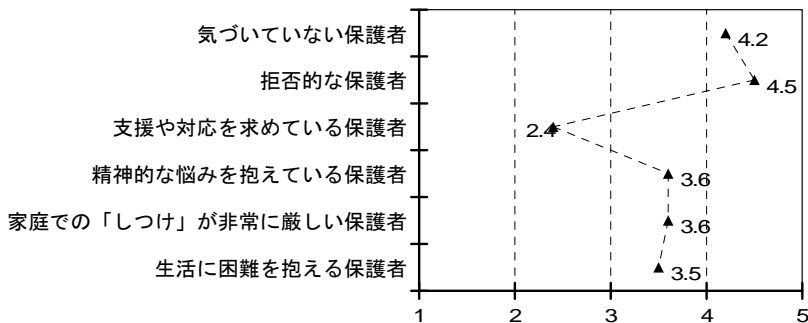


図6 「気になる」子どもの保護者支援の困難さ

### 6. 「気になる」子どもの保護者支援の方法

図7～12には保護者のタイプ別に、どのような支援が重要か尋ねた結果が示されている。全体としては、＜保護者の思いを受け止める＞（4.4）が最も高く、＜定期的な話し合いの機会を持つ＞（4.0）、＜子どもの状態を正確に伝える＞（4.0）、＜家庭での接し方について助言する＞（3.6）、＜しばらく様子を見守る＞（3.6）、＜専門機関に紹介する＞（3.6）の順であった。

次に、保護者のタイプ別にみると、＜自分の子どもが「気になる」子どもであると認め

「気になる」子どもの保護者支援に関する調査研究

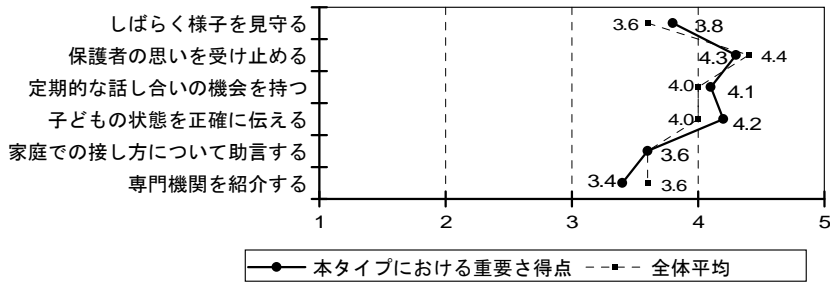


図7 「自分の子どもが「気になる」子どもであることに気づいていない保護者」への支援の重要さ

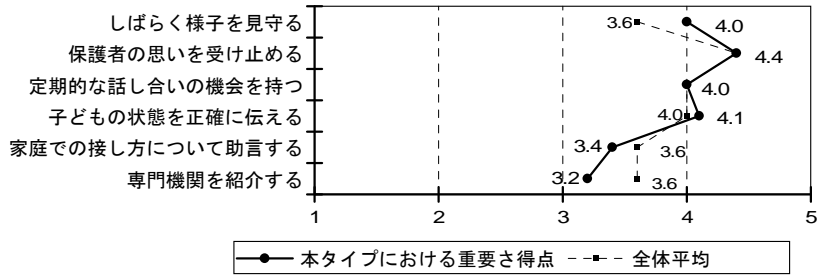


図8 「自分の子どもが「気になる」子どもであると認めることに拒否的な保護者」への支援の重要さ

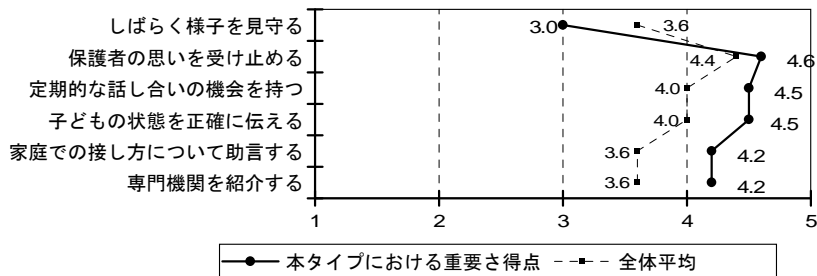


図9 「具体的な支援や対応を求めている保護者」への支援の重要さ

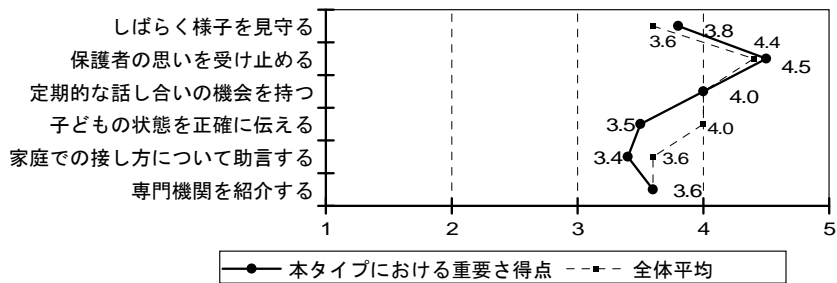


図10 「精神的な悩みを抱えている保護者」への支援の重要さ

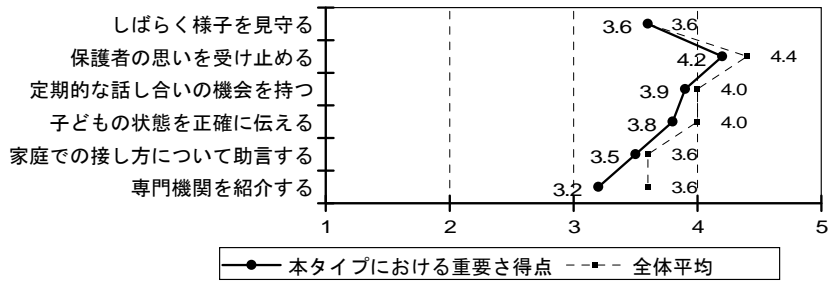


図11 「家庭での「しつけ」が非常に厳しい保護者」への支援の重要さ

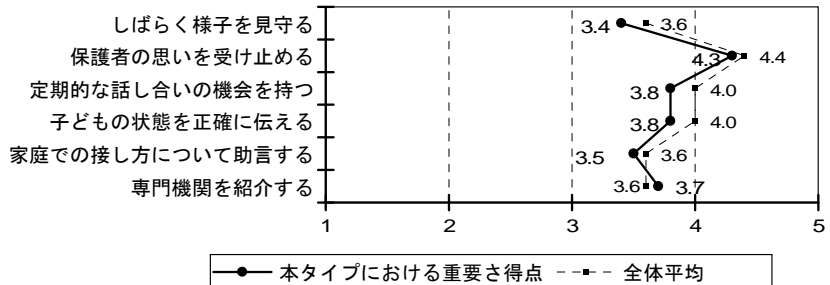


図12 「生活に困難を抱える保護者」への支援の重要さ

ることに拒否的な保護者> (図8) については、全体の平均と比べ、<しばらく様子を見守る>の評定がやや高く、<専門機関を紹介する>の評定がやや低く、より消極的なかわりが特徴的であった。一方、<具体的な支援や対応を求めている保護者> (図9) に対しては、全体の平均と比べ、<定期的な話し合いの機会を持つ><子どもの状態を正確に伝える><家庭での接し方について助言する><専門機関を紹介する>がいずれも高く、<しばらく様子を見守る>の評定値が低く、より積極的な対応がなされていた。また、<精神的な悩みを抱えている保護者> (図10) に対しては、全体の平均と比べ、<子どもの状態を正確に伝える>対応の評定が低く、<家庭での「しつけ」が非常に厳しい保護者> (図11) については、全体の平均と比べ、<専門機関を紹介する>の評定が低かった。

一般的に、保護者が自分の子どもの状態を認めている場合は、より積極的な支援がなされるが、保護者が拒否的である場合、具体的な支援がなされず、事態を見守らざるを得ない状況があると考えられる。

また、自由記述からは以下のような回答が得られた。<自分の子どもが「気になる」子どもであることに気づいていない保護者>に対しては、保育参観などの集団活動を保護者に見せて気づかせる、話し合いの場を持ち、信頼関係を築くということがあげられていた。また伝える際には一度に多くのことを伝えるのではなく徐々に伝えていく方略をとるといったこともあげられた。<自分の子どもが「気になる」子どもであると認めることに拒否



的な保護者>に対しては、話し合いの場を多く持つこと、その際には保育経験に豊富な園長や主任から伝えるということがあげられた。また、<自分の子どもが「気になる」子どもであることに気づいていない保護者>と同様に保育集団の利用もあげられた。<具体的な支援や対応を求めている保護者>に対しては、求められている支援に対応できる知識を獲得すること、個別支援の重要性があげられた。<精神的な悩みを抱えている保護者>に対しては、保護者の状態の把握とそれに適した対応といったように個別支援の重要性があげられた。また専門機関を紹介するだけでなく、専門機関との連携もあげられた。<家庭での「しつけ」が非常に厳しい保護者>に対しては、保育集団を利用し、一般的な子どもの様子を把握してもらうということがあげられた。<生活に困難を抱える保護者>に対しては、保護者の困難な状態を把握しながら個別の対応をすることがあげられた。

## 7. 公立保育所、私立保育所、幼稚園の間の違い

表2には、公立保育所、私立保育所、幼稚園の間で評定値が最大 0.5 以上異なる項目が示されている。

【コミュニケーションの手段・場面】では、<電話で話す（担任）（園長）><家庭訪問（担任）>については、幼稚園で多く、公立保育所で最も少ないことがわかる。また、<連絡帳（担任）>については、私立保育所で多く、公立保育所で最も少ないことがわかる。

【コミュニケーションの内容】では、私立保育所、公立保育所に比べて幼稚園で<世間話をする（担任）>が少なかった。

【コミュニケーションの際の心がけ】では、<ゆったりとした雰囲気の中で話す（担任）（園長）>という項目において、公立保育所の評定値が最も低かった。

【園内の体制・他機関との連携】では、<専門機関と連絡をとる><専門機関へ同行する><行政機関と連絡をとる>の3項目において、私立保育所の評定値が最も高く、<小学校と連絡をとる>では幼稚園の評定値が高かった。

【保育所・幼稚園のニーズ】では、<補助金の給付>については、幼稚園の評定値が最も高く、公立保育所の評定値が最も低かった。一方、<専門機関の巡回相談><保育者向けの「気になる」子どもの理解や発達に関する研修会><保育者向けの保育技術に関する研修会><所長／園長あるいは主任／副園長むけの研修会>の4項目については、公立保育所の評定値が最も高く、幼稚園の評定値が最も低かった。

【保護者支援の困難さ】では、<精神的な悩みを抱えている保護者>への支援において、公立保育所が最も評定値が高かった。

表2 施設の種別間で差が見られた質問項目※における評定値の平均

	公立保育所			私立保育所			幼稚園		
	平均	SD	N	平均	SD	N	平均	SD	N
<b>【コミュニケーションの手段・場面】</b>									
電話で話す(担任)	1.48	(1.01)	46	1.87	(1.07)	30	<u>3.40</u>	(1.20)	55
〃 (園長)	1.31	(0.78)	42	1.67	(0.85)	33	<u>2.41</u>	(1.12)	51
家庭を訪問する(担任)	1.17	(0.53)	46	1.44	(0.95)	32	<u>2.02</u>	(1.15)	49
連絡帳のやりとりをする(担任)	2.77	(1.63)	44	<u>3.88</u>	(1.37)	34	3.29	(1.44)	55
<b>【コミュニケーションの内容】</b>									
世間話をする(担任)	3.29	(1.16)	45	<u>3.31</u>	(1.17)	36	<u>2.77</u>	(1.15)	48
<b>【コミュニケーションの際の心がけ】</b>									
ゆったりとした雰囲気の中で話す (担任)	3.47	(0.84)	45	<u>4.08</u>	(0.81)	36	4.05	(0.95)	55
〃 (園長)	3.37	(1.07)	41	<u>3.92</u>	(1.12)	37	3.84	(1.01)	57
<b>【園内の体制・他機関との連携】</b>									
専門機関と連絡をとる	2.54	(1.18)	50	<u>2.83</u>	(1.13)	36	<u>2.31</u>	(1.17)	58
専門機関へ同行する	1.22	(0.51)	49	<u>1.83</u>	(1.15)	35	1.38	(0.91)	55
行政機関と連絡をとる	2.40	(1.32)	48	<u>2.89</u>	(1.33)	36	<u>1.43</u>	(0.94)	54
小学校と連絡をとる	1.86	(1.17)	49	2.66	(1.15)	38	<u>2.85</u>	(1.33)	62
<b>【保育所・幼稚園のニーズ】</b>									
補助金の給付	<u>2.85</u>	(0.93)	47	3.47	(1.06)	36	<u>3.69</u>	(0.85)	61
専門機関の巡回相談	<u>4.68</u>	(0.51)	50	4.26	(0.86)	38	<u>4.08</u>	(0.65)	59
保育者向けの「気になる」子どもの 理解や発達に関する研修会	<u>4.70</u>	(0.46)	50	4.59	(0.55)	39	<u>4.18</u>	(0.67)	62
保育者向けの保育技術に関する 研修会	<u>4.54</u>	(0.61)	50	4.51	(0.60)	39	<u>3.94</u>	(0.67)	62
所長/園長、あるいは、主任/副園長 向けの研修会	<u>4.43</u>	(0.68)	49	4.38	(0.63)	39	<u>3.94</u>	(0.65)	62
<b>【保護者支援の困難さ】</b>									
精神的な悩みを抱えている保護者	<u>3.96</u>	(0.89)	49	3.44	(1.05)	39	<u>3.41</u>	(1.00)	59

※平均値の差が0.5以上

(囲み線：最も高い平均値、下線：最も低い平均値)

## 8. 自由記述の分析

「気になる」子どもの保護者支援について、特に難しいと感じていることや力を入れている取り組みについて自由記述を求めた。回収された質問紙のうち、自由記述があったものは92か所であった(60.1%)。記述内容をまとめ、「難しいと感じていること」「力

を入れている取り組み」「重要なこと」を抽出し、カテゴリーにまとめた。すなわち、「保護者への直接的対応」「子どもへの対応」「園・保育者側の体制」「専門機関との連携」「その他」である。そのうち、表3には、「保護者への直接的対応」についての内容と回答数が示されている。

ここから、「難しいと感じていること」では<子どもの

状態について共通認識に至らない保護者への対応>（子どもの状態に気づいていない、拒否的な保護者への対応など）と<保護者とのコミュニケーション>（保護者と話をするなど）がともに41.3%であった。「力を入れている取り組み」では<保護者と話をする>（子どもの状態説明など）が84.4%と最も高かった。また「重要なこと」では<保護者とのコミュニケーション>（保護者との話し合いなど）が65.0%と最も多かった。

表4には、具体例が示されている。具体例1は保育者が保護者と話し合いを行い子どもの状態を説明するものの、保護者が子どもの問題に拒否的であったり、気づかないことに難しさを感じている例であり、コミュニケーションの成立自体に困難を抱える例と言える。具体例2は、保育者は子どもの状態について保護者に説明を行っているが、適切な説明の方法がわからず難しさを感じている例である。コミュニケーションの内容や方法に困

表3 「保護者への直接的対応」の内容

カテゴリー	回答数	割合 (%)
<b>難しいと感じていること</b>		
子どもの状態についての保護者との共通認識	31	41.3
問題を抱えている保護者への対応	31	41.3
保護者とのコミュニケーション	13	17.4
合計	75	100.0
<b>力を入れている取り組み</b>		
保護者と話をする	54	84.4
保護者の理解と受容・信頼関係の構築	8	12.5
その他	2	3.1
合計	64	100.0
<b>重要なこと</b>		
保護者とのコミュニケーション	13	65.0
子どもの状態についての保護者との共通認識	7	35.0
合計	20	100.0

表4 回答の具体例

<p><b>具体例1</b>：「子どもの状態を正確に伝えようとしても感情的になり『うちの子にかぎって・・・』とか『家では・・・』と保育士の言葉を信じなかったり、パニックになり泣き出してしまう親がいるのも事実。面談などの相談にはベテランの教頭なども一緒に入って、話し合いをすすめていくように努力している。・・・（以下省略）」</p> <p><b>具体例2</b>：「保護者に気になることを伝える時、保護者に何が気になるのかははっきり伝わる部分を具体的な例をあげて話すことにつとめているが、“伝わりやすい具体的な例”がなかなかみつからない。・・・（以下省略）」</p> <p><b>具体例3</b>：「保護者と子どもの姿の認識を何度か話し合いをしたり、実際、保育所での様子をみに来ていただくことで共通の認識を持たせたケースは、その後の話し合いや専門機関への紹介もスムーズにすすみました。・・・（以下省略）」</p>
---

難を抱えている例と言える。一方、具体例3は、うまく行った例である。ここでは、子どもの状態について保育者と保護者とが共通認識をもてたことが支援の成功理由としてあげられている。

### 【まとめ】

1. 今回の調査で回答が得られた保育所・幼稚園 153 か所のうち、『現在「気になる」子どもがいる』という回答が 86.3%の保育所・幼稚園から寄せられた。「気になる」程度や「気になる」方向は様々だとしても、これはかなり高い割合だと考えられる。

また、このような「気になる」子どもの保育に当たっては、「気になる」子ども自身への働きかけと同時に保護者への支援が重要な課題となる。

2. 「気になる」子どもの保護者への支援に際して、保育者は<送迎時に話す>ことが最も多く、<保護者が理解しやすいように話す><否定的なことだけではなく、肯定的なことも交えて話す>ことを心がけている。内容としては、<子どもの園での様子>や<子どもの家庭での様子>について話している。しかし、保護者とのコミュニケーション自体がうまく成り立たない場合もあり、送迎時の短い時間内だけでは十分なコミュニケーションをとるのは難しい。その点で、<定期的な話し合いの機会を持つ>ことや<保護者会や保育参観の時に話す>ことも含めて、多様なコミュニケーションの機会を準備することが必要となってくると考えられる。

3. 園内体制及び他機関との連携について、<クラス担任と所長（主任・副園長）で話し合いの場を持つ><職員全体で話し合いの場を持つ>といった施設内での対応については、平均評定値が 3.0 以上であった。ここから、一般的に施設内の話し合いは比較的頻繁に行われていると考えられる。しかし、自由記述の回答などから、保護者に対する支援を行う際、担任と園長とで明確な役割分担がなされていない場合もある。その点で、「気になる」子どもに対する支援、保護者支援に当たっては、施設内での情報交換に加えて具体的な連携体制をもう一度確認することが重要だと考えられる。

一方、他機関との連携に関する 5 項目は、いずれも評定平均が 3.0 以下であり、連携体制が十分確立されていない現状が浮き彫りにされた。今後は「特別支援教育」との関連で、乳幼児期からの個別の教育支援計画の作成や一貫した家族支援計画の作成が求められることから、他の機関との連携がより一層重要になってくると考えられる。その点で、関連機関の制度的連携が一層推進される必要がある。

4. 保護者のタイプ別にみた支援の難しさに関しては、全体として、<自分の子どもが「気になる」子どもであると認めることに拒否的な保護者>に対する支援が最も難しいという結果であった。また、保護者が自分の子どもの状態を認めている場合は、より積極的な支援がなされるのに対して、保護者が拒否的である場合、積極的な支援がなされず、事態を見守らざるを得ない傾向が認められた。その点で、<保護者の思いを受け止める>だ

けではなく、＜子どもの状態を正確に伝える＞＜専門機関に紹介する＞などの積極的対応をどのように展開していくかといった具体的方策を持つことが重要になってくる。

一般に、「気になる」子どもの保護者支援の難しさには、第1に保護者とコミュニケーションをとること自体の難しさがある。第2に、保護者に対して子どもの正確な状態を伝えることの難しさがある。第3に、具体的な支援の難しさがある。したがって、保育者は、子どもの発達について理解を深めることと同時に、それを保護者に伝え、保護者と共に子どもを支援していくための様々な技術や方法を身につけることが重要になってくる。したがって、今後はこの3側面に対応する研修を充実させ、個々の保育者の専門性を向上させることがより一層必要になってくると考えられる。

## 【文 献】

- 藤崎春代・木原久美子・倉本かすみ・長田安司・今西いみ子 2000 統合保育において子どもと保育者を支援するシステムの研究. 発達障害研究, 22, 120-128.
- 本郷一夫 2002 現場での支援のための方法の基礎. 藤崎真知代・本郷一夫・金田利子・無藤 隆 編著 『育児・保育現場における発達とその支援』, 第5章, 63-77, ミネルヴァ書房.
- 本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子・小泉嘉子・飯島典子 2003a 保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する研究. 発達障害研究, 25, 50-61.
- 本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子・高橋千枝・角張慶子・杉村僚子 2003b 保育の場における心理職の専門性に関する調査. 東北大学大学院教育学研究科教育ネットワーク研究室年報, 3, 1-13.
- 久保山茂樹・小林倫代 2000 障害児の早期からの教育相談における保護者対応 ―通級指導教室の保護者への調査から―. 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 27, 23-33.
- 田淵久美子 2003 保育所における親の育児支援の内容に関する研究 ―保育園児の親への調査を通して―. 活水論文集, 46, 109-121.
- 徳田克巳 2000 保育者の感じる「対応に困る保護者」. 実践人間学, 4, 33-38.

## <付 記>

本研究は東北大学大学院教育学研究科教育ネットワーク研究室、先端的プロジェクト型研究費の補助を受けた。

## 資料 保育所・幼稚園における「気になる」子どもの保護者支援に関する評定値

## 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーション

	担任			所長・園長／主任・副園長		
	平均	SD	回答数	平均	SD	回答数
<b>【1. 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの手段・場面】</b>						
送迎時に話す	4.08	0.87	142	3.19	0.91	134
電話で話す	2.37	1.41	131	1.85	1.06	126
保護者会や保育参観の時に話す	3.10	1.36	127	2.55	1.15	124
相談日を決め個別に話す	2.89	1.24	132	2.48	1.08	129
家庭を訪問する	1.57	0.98	127	1.25	0.61	118
連絡帳のやりとりをする	3.27	1.53	133	1.41	0.98	121
メールでやりとりをする	1.04	0.27	124	1.03	0.37	117
<b>【2. 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの内容】</b>						
子どもの園での様子について話す	4.51	0.78	144	3.30	0.99	135
園での取り組みについて話す	4.01	0.95	135	3.18	1.08	130
家での接し方について話す	3.12	0.94	131	2.89	1.04	132
子どもの家庭での様子を聞く	4.24	0.82	139	3.27	1.12	131
保護者の子育てに関する悩みを聞く	3.66	1.00	132	3.15	1.16	130
保護者の生活全般についての悩みを聞く	2.92	1.16	128	2.89	1.21	129
世間話をする	3.10	1.18	129	2.95	1.08	131
<b>【3. 「気になる」子どもの保護者とのコミュニケーションの際の心がけ】</b>						
保護者が理解しやすいように話す	4.56	0.60	140	4.13	0.96	137
否定的なことだけではなく、肯定的なことも交えて話す	4.54	0.64	141	4.20	0.97	132
ゆったりとした雰囲気の中で話す	3.87	0.92	136	3.72	1.08	135
事実をはっきり伝える	3.54	0.87	137	3.26	1.09	127
子どもについての問題を認識してもらう	3.51	0.94	138	3.22	1.13	129
自分たちの子育てを見直してもらう	2.50	0.93	127	2.57	1.02	123
保護者の話をたくさん聞く	4.11	0.95	140	3.83	1.08	133

## 園内の体制および他機関との連携

	平均	SD	回答数
クラス担任と所長(主任・副園長)で話し合いの場を持つ	4.07	0.87	151
職員全体で話し合いの場を持つ	3.83	0.91	150
専門機関と連絡をとる	2.52	1.18	144
専門機関を紹介する	2.49	1.15	142
専門機関へ同行する	1.44	0.89	139
行政機関と連絡をとる	2.14	1.33	138
小学校を連絡をとる	2.48	1.30	149

## 保育所・幼稚園のニーズ

保育者の増員	3.68	0.92	146
補助金の給付	3.36	0.99	144
専門機関の巡回相談	4.33	0.72	147
専門家による保護者へのカウンセリングのかかわり	4.18	0.70	147
保育者向けの保護者支援に関する研修会	4.28	0.68	148
保育者向けの「気になる」子どもの理解や発達に関する研修会	4.46	0.62	151
保育者向けの保育技術に関する研修会	4.28	0.70	151
所長／園長あるいは主任／副園長むけの研修会	4.21	0.69	150

## 「気になる」子どもの保護者支援の困難さ

自分の子どもが「気になる」子どもであることに気づいていない保護者	4.23	0.78	151
自分の子どもが「気になる」子どもであると認めることに拒否的な保護者	4.45	0.71	150
具体的な支援や対応を求めている保護者	2.40	0.85	149
精神的な悩みを抱えている保護者	3.60	1.00	147
家庭での「しつけ」が非常に厳しい保護者	3.59	0.85	147
生活に困難を抱える保護者	3.51	0.88	147

<b>「気になる」子どもの保護者支援の方法</b>			
	平均	SD	回答数
<b>【1. 気づいていない保護者】</b>			
しばらく様子を見守る	3.80	0.74	147
保護者の思いを受け止める	4.30	0.73	149
定期的な話し合いの機会を持つ	4.05	0.77	148
子どもの状態を正確に伝える	4.18	0.69	149
家庭での接し方について助言する	3.58	0.68	148
専門機関を紹介する	3.40	0.73	137
<b>【2. 拒否的な保護者】</b>			
しばらく様子を見守る	4.03	0.75	147
保護者の思いを受け止める	4.37	0.63	148
定期的な話し合いの機会を持つ	3.97	0.75	147
子どもの状態を正確に伝える	4.08	0.76	149
家庭での接し方について助言する	3.42	0.78	146
専門機関を紹介する	3.24	0.73	137
<b>【3. 具体的な支援や対応を求めている保護者】</b>			
しばらく様子を見守る	3.00	1.17	145
保護者の思いを受け止める	4.57	0.52	148
定期的な話し合いの機会を持つ	4.48	0.56	149
子どもの状態を正確に伝える	4.46	0.58	150
家庭での接し方について助言する	4.21	0.62	148
専門機関を紹介する	4.15	0.77	140
<b>【4. 精神的な悩みを抱えている保護者】</b>			
しばらく様子を見守る	3.82	0.93	148
保護者の思いを受け止める	4.48	0.65	149
定期的な話し合いの機会を持つ	4.03	0.73	148
子どもの状態を正確に伝える	3.48	0.79	147
家庭での接し方について助言する	3.42	0.80	149
専門機関を紹介する	3.63	0.81	141
<b>【5. 家庭での「しつけ」が非常に厳しい保護者】</b>			
しばらく様子を見守る	3.55	0.90	148
保護者の思いを受け止める	4.16	0.67	148
定期的な話し合いの機会を持つ	3.85	0.73	148
子どもの状態を正確に伝える	3.84	0.79	147
家庭での接し方について助言する	3.55	0.71	150
専門機関を紹介する	3.17	0.84	138
<b>【6. 生活に困難を抱える保護者】</b>			
しばらく様子を見守る	3.42	0.99	146
保護者の思いを受け止める	4.34	0.63	146
定期的な話し合いの機会を持つ	3.84	0.81	147
子どもの状態を正確に伝える	3.77	0.77	149
家庭での接し方について助言する	3.50	0.78	150
専門機関を紹介する	3.70	0.86	142